

# 那須から発信（発進）！

No.69  
2020年1月

経営改善情報誌

# とちぎの元気創出！



## 表紙の説明

### ねぎの生産拡大

那須地域は、県内でも有数のねぎ産地です。JAなすのでは、産地拡大の新たな柱として9月17日にねぎ集出荷調整施設（大田原市富池）が稼働を開始しました。

これまで収穫後に各戸で行っていた調整・選別・箱詰め等の出荷調整作業の省力化や新規栽培者の初期費用削減などにより、産地拡大への取組が加速すると期待されています。

## もくじ

- ◆土地利用型園芸品目の生産拡大を推進しています～園芸大国とちぎづくり～ ..... 2
- ◆GAPに取り組み、生産工程に潜むリスクを低減しましょう ..... 3
- ◆認定農業者紹介【大田原市 森泉さん、大田原市 西岡智子さん】 ..... 4
- ◆新農業士・女性農業士・名誉農業士紹介 ..... 6
- ◆栃木県農業大賞受賞者紹介 ..... 7
- ◆各種表彰事業受賞者紹介 ..... 9
- ◆トピックス ..... 10
- ◆青少年・女性活動紹介
- 【那須野が原青少年クラブ、那須地区農生研、那須地方農村女性会議】 ..... 11



## 土地利用型園芸品目の生産拡大を推進しています ～園芸大国とちぎづくり～

那須地域では地域の特色を活かし、水田を活用した露地ねぎや加工用たまねぎ、夏秋なす、うどなどの土地利用型園芸品目の生産拡大を推進しています。

令和2年産主食用米の作付け参考値が提示された中、新たに園芸導入を検討している方は「園芸総合相談所（みのりす）」にご相談ください。

〔問合せ先〕 那須農業振興事務所経営普及部 TEL 0287-22-2826

### たまねぎ栽培のここが魅力！

☆水稲との作業競合が少ない品目です。

☆は種から収穫まで機械化一貫体系が整っており、省力的に栽培が可能です。

☆加工用では出荷に細かい規格はありません。

☆契約販売体制が整えられており、販売先が確保されています。

○経営収支（30a当たり）

那須農業振興事務所調べ

収穫量	平均単価	粗収益	経営費	所得	労働時間
18,000kg	50円/kg	900,000円	685,510円	214,490円	324時間

注：労働時間は、は種作業3名、定植作業2名、収穫・調整作業を4人で計算しています。

加工用たまねぎに係わる機械は、機械リースで試算しています（は種機、移植機、掘取機を計上）。

○基本的な作型

月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	4月	5月	6月
那須・塩那地区	○	育苗	△								□
その他の地区		○	育苗	△							□

☆「ターボ」「もみじ3号」などが主な作付け品種です。

○：は種 △：定植 □：収穫

### 栃木いちごのニューフェイス（新品种）

那須地域では令和2年産から新たないちご2品種の栽培が始まりました。

甘さと酸味のバランスが整った「とちおとめ」に加えて、それぞれが特徴的な果実品質を持つ新品种によって、当地域におけるいちごの生産拡大への期待がふくらみます。



#### ミルキーベリー ～特別なトキに特別な人へ贈る特別ないちご～

##### 品種の特徴

- 果実が白く、「とちおとめ」と「スカイベリー」の中間の大きさ
- 酸味が少なく、まろやかな食感と甘さ
- 収量性は「とちおとめ」より優れる



とちおとめ ミルキーベリー スカイベリー

#### 栃木i37号 ～作りやすく、食べやすいいちご～

##### 品種の特徴

- 酸味が少なく、甘さが際立つ
- 耐病性（萎黄病）に優れている
- 収穫始めが10月下旬と早く収量が多い
- 平均的な果実の大きさは、とちおとめとスカイベリーの間
- 切り口はへた部分がくぼむハート型



栃木i37号

## GAPに取り組み、生産工程に潜むリスクを低減しましょう

### 1) GAPは日常的な取組

GAP (Good Agricultural Practice：農業生産工程管理、良い農業の実践)は「農産物を作る際に適正な手順や資材の管理を行い、食品安全や労働安全、環境保全等を確保する取組」のことです。一つ一つの取組は難しいものではなく、日頃からの実践により、様々なリスクが低減できます。

農業生産工程におけるリスク (一例)		対 策 例
食品安全	異物混入	衛生帽の着用、作業場の整理整頓 等
	不適切な農薬使用	ラベルの確認、使用履歴の記帳 等
労働安全	農機具による事故	農機具の使用前後の点検、安全確認 等
	農薬の不適正使用による中毒	ラベルの確認、適正な防護具の着用 等
環境保全	廃棄物の不適正処理による土壌や大気の汚染	廃棄物の適正処理 等
	過剰施肥による水質汚染	土壌診断に基づく適正施肥 等

### 2) いちごでのGAPの取組のレベルアップ

栃木県では、「いちご王国・栃木」の維持・発展を図るため、いちご生産者がGAPに取り組みめる環境を醸成し、安全・安心のレベルアップを図る「栃木いちごGAP」を推進しています。那須地域でも、全いちご生産者が良い農業を実践できるよう、自らの農場改善に取り組んでいます。

### 3) 国際水準GAP認証取得の取組

那須地域では、国際水準のGAP認証取得も増加しつつあります。栃木県開拓農業協同組合の栃木県高冷地GAP認証取得部会が「ほうれんそう」でJGAPの団体認証を取得し、栃木県那須拓陽高等学校は「なし」でグローバルGAPの認証を更新しました。



いちご生産者の現地指導



適正に管理された農薬保管庫



# 認定農業者紹介

## 土地利用型露地野菜の導入による経営発展を目指して

大田原市実取 森 泉さん



森 泉さん(左)・瑞己さん(右)

森泉さんは平成10年に就農し、水稻、麦、大豆を中心とした経営を行ってきました。平成17年には冬期の所得確保のため新たにいちごを導入し、土地利用型作物である稲麦大豆と施設園芸を組み合わせた複合経営を行っています。

平成30年には、県外の農業法人でキャベツやたまねぎ等様々な露地野菜の栽培技術を身に付けた、後継者の瑞己さんが就農しました。瑞己さんの就農を機にいちごの栽培規模を拡大することも検討しましたが、自身の所有する農地を有効活用し、瑞己さんが学んだ露地野菜の栽培技術を活かすため、平成30年秋から加工用たまねぎに取り組み、翌年には30aまで拡大しました。

加工用たまねぎは、は種から収穫まで機械化一貫体系が整っており、更にその作業機械もレンタル利用が可能のため、少ない初期投資で栽培が始められること、また契約販売のため価格が市況に左右されず経営の安定につながることで、6月中旬から収穫作業が始まるため基幹作物であるいちごとの作業競合が少ないことに魅力を感じたと、森さんは話されました。

今後は、いちご栽培は泉さん、加工用たまねぎ栽培の中心は瑞己さんと役割分担しながら、経営の2本の柱として更なる経営発展を目指されるということです。



いちごは収穫期を迎えています



たまねぎは新葉を展開しています

## 田園風景から広がる可能性

大田原市花園 momo farm代表 西岡 智子さん



西岡智子さん

西岡さんは、平成20年まで県外で生活していましたが、父親の病気を機に実家である大田原市にUターン就農しました。就農当初は、父親から米作りと農業経営の指導を受けながら徐々に受託面積を拡大、現在は水稻(主食用米)とビール麦約14haの経営をほぼ一人でしています。

西岡さんのモットーは「量よりも食味にこだわり、だれもおいしいと言ってくれる米づくり」だそうで、その味が認められて東京のレストランで使われる等、「西岡さんのお米」ファンがますます増えているそうです。また、このお米を使った6次産業化の取組にも積極的で、平成28年に大田原市内で菓子店を経営するパティシエの妹さんと共同で、自家産の米粉を使用したお菓子「komeco de oyatsu」シリーズを開発、今ではフィナンシェやクレープなど米粉の特徴を活かした商品が30種類以上を超え、米粉菓子を求めるお客様が後を絶ちません。

さらに、西岡さんは、食育や農業体験活動、農業のイメージアップ活動等、生まれ育ったこの地域の田んぼや農業の魅力を伝える活動を積極的に行っています。特に、とちぎ農業女子プロジェクトでは、県内各地の農業女子とともにマルシェへの出店やSNS等を活用した情報交換、広報誌の発行など女性ならではの感性を活かしたPR活動を行っています。また、昨年度から県内に先駆けて始まった中学生への農業の魅力発信講話の講師を務めたことに加え、令和元年11月からは、県の次期農業振興計画策定に関わる栃木県農政審議会委員にも選任されました。

今後については、これまでの経営をますます発展させるとともに、平成29年に取得した「グリーンツーリズムインストラクター」の資格を活かし、農家民泊の受入れを増やしていきたいということです。

また、多くの若者が自然豊かなこの地域に誇りを持ち、活気溢れる町とするため、現在大学生である長男と理想とする大田原の農業発展を夢見ながら着実に歩んでいきたいということです。

また、多くの若者が自然豊かなこの地域に誇りを持ち、活気溢れる町とするため、現在大学生である長男と理想とする大田原の農業発展を夢見ながら着実に歩んでいきたいということです。



とちぎ農業女子プロジェクトでのマルシェ



米粉のお菓子 (komeco de oyatsu シリーズ)



## 新 農業士・女性農業士・名誉農業士紹介

令和2年1月9日(木)に栃木県公館で令和元年度栃木県農業士・女性農業士・名誉農業士の認定式が挙行されました。那須地方では農業士2名と女性農業士1名が認定され、また、永年の農業士活動に対し名誉農業士3名が認定されましたので御紹介します。今後那須地域の農業振興、地域活性化、青年農業者の育成等御活躍を期待いたします。なお、那須地域の認定者は、農業士29名、女性農業士11名となりました。

### ● 新農業士 ●



小野崎 豊氏(大田原市)

水稻栽培を中心に「農業で経営が成り立つように」と経営資源の選択と集中を行い、実需者の要望に対応することを心がけ、「ゆうだい21」や「とちぎの星」を作付けしています。

また、地域の農地を守るため利用権設定や作業受託についても積極的に取り組み、農地保全に尽力しています。



大関 一男氏(那須塩原市)

酪農を主体とした経営であり、「魅力ある酪農経営実現」のため、仲間とともに研究会活動に参加し自己研鑽に努めてきました。個体に応じた給与飼料の配合や暑熱対策により1年間安定した乳質を保っています。

また、担い手の高齢化や廃業者からの農地貸借により農地や景観の保全に貢献しています。

### ● 新女性農業士 ●



岡本 利江氏(那須塩原市)

アスパラガス+水稻を中心とした家族経営で、役割分担を行いながら農業経営に参画しています。

米や野菜などを自分たちで作って食べられる農家の強みを生かし食卓を豊かにすることを心がけています。

また、水路の堀さらいや草刈りなどの共同活動にも夫と共に参加しています。

### ● 新名誉農業士 ●

永きに渡り、地域農業の発展や青年農業者の育成、男女共同参画の推進等に御尽力されてきましたことに心より敬意を表します。

今後ともますます御活躍されますことを御期待申し上げます。



遠藤 清志氏



佐藤 綾子氏



小山 まゆみ氏

## 栃木県農業大賞受賞者紹介

本年度創設された栃木県農業大賞は、本県の農業・農村を「子供たちに夢を与え、ますます人を惹きつける魅力あるもの」としていくため、大きく変化する農業情勢に対応し新規性や独自性の高い取組を行う農業者や団体を表彰するものです。

### 農業経営の部 【特別賞】 栃木県農業協同組合中央会長賞 前田 公一さん (那須塩原市)



前田公一さんは、現在、繁殖雌牛 52 頭を飼養する繁殖農家です。「肥育農家に損をさせない」子牛を育てるため、血統の優れた繁殖雌牛群を構築し、子牛の持っている能力を最大限引き出すため、ストレスのない環境づくりと、エサを十分に食べ込めるよう腹づくりに力を入れています。地域の担い手として、地域全体で優良子牛が生産できるよう若手繁殖農家と切磋琢磨しながら技術向上に取り組んでいます。

### 【特別賞】 下野新聞社長賞 広木一央さん・佳余子さん (那須町)

広木さんは、家族全員がゆとりある生活を実現するため、雇用を活用し適期適作業とゆとりある大規模いちご経営を実践しています。

販売面では、農協出荷を中心に観光地という地の利を活かし、地元の直売所や菓子店にいちごを供給し消費拡大と PR に努めています。



### 農村活性化の部 【栃木県知事賞】 須賀川ふるさとづくり協議会 (大田原市)



須賀川地区は市街地から遠いため若者が減少し、地域コミュニティが薄れていることが課題でした。そこで、県単事業を活用して組織を立ち上げ、「新そばまつり」「新茶まつり」の開催、さらには「旧校舎の保全」などの取組により交流人口を呼び込むことで地域活性化を図っています。

### 【特別賞】 下野新聞社長賞 峯岸地区農地維持組合 (那須町)

農地まわりの草刈りなどの農地維持活動に加え、地域資源を次世代に継承すべく生物の希少種監視として、ホタルの監視や彼岸花の植栽活動に取り組んでいます。また、農家民泊ではホタル観賞、農業体験を受入れるとともに地域全体で「峯岸熊野講餅つき」という伝統芸能を毎年行い地域の自然環境、文化について発信し、交流を図っています。



### 芽吹き力賞 【栃木県知事賞】 那須高原こたろうファーム 渋江 和彦さん・陽子さん (那須町)



渋江さん夫妻は都内で会社員をしていましたが、那須町に移住して露地野菜の契約栽培に取り組んでいます。レストランシェフの意向を取り入れながら栽培するなど、観光地那須ならではの多品目栽培にチャレンジしています。また、異業種との交流を図るため、マルシェを開催しています。



## 各種表彰事業者紹介

### 全国優良経営体表彰にて優良賞を受賞



小針結城さん・博子さん  
(那須塩原市)

令和元年度全国優良経営体表彰（農林水産省・全国担い手育成総合支援協議会共催）において、那須塩原市青木で酪農と肉用牛の複合経営を営んでいる小針結城さん・博子さん夫妻が経営改善部門で優良賞を受賞しました。

小針さんは平成13年に就農後、酪農及び和牛受精卵移植を活用した和牛子牛生産に取り組んでいます。現在は乳牛73頭、和牛繁殖雌牛6頭を飼養しており、牛群検定成績の活用や牛舎内外の環境整備により常にトップクラスの乳質を維持しています。また、「牛を健康に飼う」ことを心がけ、初乳に始まる飼料の適切な給与により長命連産を実現しています。

今後も高品質な生乳生産及び発育良好な肉用子牛生産を継続することにより、更なる経営の発展が期待されます。

### 枝肉共励会にて最優秀賞を受賞

東京都中央卸売市場食肉市場において、令和元年10月10日に第40回とちぎ和牛枝肉共励会（出品頭数74頭 主催：全国農業協同組合連合会栃木県本部、（一社）とちぎ農産物マーケティング協会）、令和元年11月22日及び28日に第36回栃木県肉用牛総合共進会（出品頭数64頭 主催：（一社）とちぎ農産物マーケティング協会）が開催されました。

那須管内からはそれぞれの共励会に多くの牛が出品され、入賞牛が多数ありました。中でも、とちぎ和牛枝肉共励会では大田原市の木下智昭さんが最高位賞となる最優秀賞を受賞しました。

今後とも高品質な和牛を生産することで、その品質がより広く認められるとともに、更なる産地の発展が期待されます。



木下 智昭さん(大田原市)(左)

### 優良担い手表彰事業(個人)の部にて優良賞を受賞



渡辺 毅さん  
(那須町)

渡辺毅さんは那須町寺子丙で、和牛繁殖と水稻の複合経営を営んでいます。和牛繁殖にあたっては、雌牛が安全に出産できる環境づくりを心がけているほか、産後の親牛と子牛を早期分離させることにより、分娩間隔を短縮し年間の産子数を増加させる等の工夫を行っています。さらに、ICTを活用した分娩監視装置の導入により、作業の効率化に努めています。

また、地域の和牛繁殖農家の技術向上のため助言や指導等を熱心に行っていることが高く評価され、優良賞（栃木県担い手育成総合支援協議会長賞）を受賞しました。

## 栃木県土地利用型園芸コンクールにて優秀賞を受賞

大田原市の吉成邦和さんは、複数の土地利用型園芸品目による周年出荷体制の実践、土づくりに主眼を置いたほ場管理などの取組が高く評価され、第2回栃木県土地利用型園芸コンクールにおいて優秀賞を受賞されました。首都圏をはじめとする量販店や飲食店、地元の直売所や学校給食など様々な販路を自ら開拓するとともに、消費者の要望に応えるため味や品質にこだわりながら規模拡大を進めています。



吉成 邦和 さん  
(大田原市)

## 毎日農業記録賞一般の部にて優秀賞を受賞

大田原市親園の momo farm 代表の西岡智子さんの「永遠に続く田園風景を次の世代に引き継ぐ！それが私の天職」が第47回毎日農業記録賞一般部門の優秀賞に選ばれ、12月4日、東京都で中央表彰式が行われました。

西岡さんは、父から言われた「ひとりでもできっかん！」の言葉を胸に就農して7年、地域の人達や家族から支えられてきたことへの感謝の気持ちから応募したそうです。今回の受賞を機に就農時のことを振り返るとともに、これからへの決意も新たに、今後益々の活躍が期待されます。



西岡 智子 さん  
(大田原市)

## 農事功績者表彰にて緑白綬有功章を受章

大日本農会主催の令和元年度農事功績者表彰式が、令和元年11月21日に東京都の三会堂ビルで挙行されました。本表彰事業は、農事改良の奨励または実行に功績顕著な者、農業上の有益な発見または研究を行い功績顕著な者等を表彰するもので、今年度の全国受章者は68名、このうち栃木県からは3名で、那須地方からは大田原市黒羽向町の渡辺政義さんが緑白綬有功章を受章されました。

渡辺さんは、梨・水稲の複合経営開始以来、梨の収量・品質向上に向けた栽培技術の確立や、「にっこり」を先駆けて導入するなど、梨の大規模経営を実現するとともに、水稲では省力化技術の積極的な導入や、WCS用稲作付けによる地域内耕畜連携を実践するなど、地域のモデル的な経営を確立してきました。

また、JAなすの梨部会長として技術確立や産地確立、産地ブランド化に貢献するとともに、(一社)とちぎ農産物マーケティング協会の果樹部会長及び梨専門部長を務め、京浜市場における「とちぎ梨」シェア拡大、大震災や凍霜害発生時に対する県内ナシ産地の早期復興に尽力されました。

さらに、大田原市農業委員、農地利用最適化推進委員長として遊休農地の解消や、担い手への農地利用の集積・集約化、新規参入の促進など、地域農業へ多大な貢献をしてきたことが高く評価されました。



渡辺 政義 さん  
(大田原市)



## トピックス

### World Cheese Awards 2019 にて上位入賞

那須ナチュラルチーズ研究会は、ナチュラルチーズの製造技術向上や普及拡大のため、那須地域のチーズ工房や販売店、乳製品を製造販売する工房などを構成員として平成24年に設立されました。これまで、那須塩原畜産フェアにおけるオリジナルピザ販売や、チーズづくり体験の実施、那須地域ゆかりのシェフによる「那須のチーズを楽しむ会」の定期開催などによりナチュラルチーズの普及拡大を図っています。

また、会員各工房のチーズが、国内のチーズコンテストでコンスタントに上位入賞するほか、今牧場のチーズは JAL 国際線ファーストクラスの機内食として幾度も採用されるなど、品質も確実に向上しています。

さらに、10月にイタリアで開催された「World Cheese Awards 2019」において、「チーズ工房那須の森」の「森のチーズ」が世界第10位に選ばれ、今牧場の「りんどう」もブロンズを獲得し、那須のナチュラルチーズが日本国内のみならず、世界でも通用するレベルであることを証明することができました。



知事表敬訪問

### 第6回那須地域良食味米コンクールが開催されました

令和元年10月24日に、那須地域良食味米コンクールが開催されました。「コシヒカリ」や「なすひかり」、「とちぎの星」など30点の出品がありました。

事前に機械による食味・外観品質の分析を行い、1次審査を通過した「コシヒカリ部門」の上位4点、「なすひかり・その他良食味米品種部門」の上位5点について、食味審査(人による実食)を行いました。

「コシヒカリ部門」は鈴木辰美さん、「なすひかり・その他良食味米品種部門」は横山武男さんが「なすひかり」で最優秀賞を受賞しました。



食味審査の様子



鈴木 辰美さん



横山 武男 さん

### 2年目を迎えた中学生への農業魅力発信講話

昨年度、県内初の取組として那須管内の中学校7校(管内全20校)で実施された本講話は、農業士を中心に認定農業者の方や、JAなすの及び農業振興事務所の職員から農業の現状や魅力、那須の豊富な農産物等の情報を発信してきました。その結果、中学生からは農業の重要性や那須地域の農業のすばらしさを知ることができたと高評価でした。

今年度の実施は15校まで拡大し、これまでの内容に農業が地域に果たす役割を加えたことで、農業の大切さをはじめ、より一層農業の理解が深まったと昨年以上の評価を得ています。

これからの那須地域を支える若い人に向け、様々な場でこうした農業の魅力を継続して伝えることが重要と思われます。



講師を務める  
認定農業者の助川さん



## 青少年・女性活動紹介

### 令和元年度の実績意見発表会が盛大に開催！

12月12日、那須塩原市いきいきふれあいセンターで、地域の青年農業者が一堂に会し、農業経営改善のために取り組んできた活動成果やクラブ組織活動の状況、また日頃考えている意見を発表する実績意見発表会が開催されました。今年度は69名が参加し、プロジェクト発表の部が3点、意見発表の部が2点、クラブ活動発表の部が3点の計8点の発表が行われました。また、那須拓陽高校生と青年農業者が15名程度の少人数グループ3班に分かれて意見交換会を行い、農業を始めるきっかけや経歴等、高校生からの就農に関する質問に対し、青年農業者が身近な先輩としてアドバイスしました。

なお、令和2(2020)年1月24日に開催される栃木県農業青年研究大会で地区代表として以下の3点を発表する予定です。

大変おめでとうございます。

#### 【推薦内容】

##### ○プロジェクト発表の部

菊池 太輔氏(園芸・特産作物部門)、  
石井 晶氏(地域活動部門)

##### ○意見発表の部

君島 拓氏(那須塩原市4HC)



クラブ員の発表



意見交換会

### 那須地方農村女性会議

那須地区6つの女性グループで組織する那須地方農村女性会議では、令和元年8月21日に、農業・農村におけるワークライフバランス推進研修会を開催しました。

「女性がいつまでも輝いて生きるために」と題し、大田原市安養院の住職である川口美保氏から御講演をいただきました。また、ヨガ指導者でもある川口氏からは、健康を保つためには体と心に密接に関係している呼吸法が大切であるということで、全員が簡単なヨガを行いながら呼吸法を学び、とても楽しく有意義な研修会となりました。



### 那須地区農村生活研究グループ協議会

地元の農産物を活用して、新たなレシピの考案・調理を行う恒例の「食と農の交流会」が、一般参加者6名を含む31名が参加し、令和元年9月4日に開催されました。

今年度は、大田原市農生研グループが①アスパラガスのつくね②手作りがんも③ほうれん草とこんにゃくの白和え④トマトのレアチーズケーキを、那須塩原市農生研グループが⑤五目おこわ⑥みょうがとミニトマトの味噌汁を考案、6つの班に分かれてそれぞれが見事なメニューを完成させました。

参加者からは、「地元の食材で簡単に、しかもこんなにおいしい料理ができることに感動した」と好評で、来年も是非参加したいとの声が相次ぎました。



## 那須地区認定農業者協議会定期総会、セミナーの開催について

那須地区認定農業者協議会では、毎年3月に定期総会を開催しています。各市町認定農業者組織から代議員の出席をお願いいたします。

また、認定農業者の経営改善・発展に資するため、定期総会と同日にセミナーを開催します。今年度の内容については詳細が決定次第改めてお知らせします。

## 令和2年度とちぎ農業ビジネススクールの御案内

～是非、本人や御家族、従業員が受講して具体的な経営改革に取り組みませんか?～

- 募集期間：令和2(2020)年2月12日(水)～5月8日(金)
- 開催期間：令和2(2020)年6月16日(火)～令和3年(2021)年3月2日(火)  
(講座開催18回)
- 募集対象：経営の高度化を目指す本県在住の農業者  
(農業従事経験が概ね3年以上45歳程度まで)
- 募集定員：20名
- 受講料：30,000円



- 内 容：  
経営者マインドセミナー（農業経営実践者の講義及び討論による意識改革）  
経営スキルセミナー（マーケティングや会計・財務管理等の経営スキル習得）  
経営改革プランニング（中小企業診断士等の専門家からアドバイスを受けながら作成）
- 問合せ先：栃木県農業大学校 宇都宮市上籠谷町1145-1（TEL 028-667-4944）



## 気象災害に備えましょう!!

栃木県では、気象災害による農作物への技術対策情報等を携帯電話等に通知する「とちぎ農業防災メール」、気象情報等を通知する「栃木県防災メール」を配信しています。気象災害が発生しやすい条件になると、メールで注意喚起が送られてくるサービスです。積極的に活用しましょう！  
どちらも栃木県公式HPから登録できます。

### 1) とちぎ農業防災メール (農作物の技術対策)

とちぎ農業防災メール

QRコードで直接登録できます



### 2) 栃木県防災メール (各気象情報・注意報・警報等)

栃木県防災メール

QRコードで直接登録できます



- ※ 2つのメールは、携帯電話・パソコンのどちらでも登録可能です。
- ※ 登録は無料ですが、受信に伴う通信料は登録者様の負担となります。
- ※ 農作物の技術対策とは関係のないメールが届くことがあります。メール本文中に配信停止のリンクがありますので、そこから配信停止の手続きを行ってください。

編集・発行 栃木県那須農業振興事務所 令和2(2020)年1月

〒324-0041 栃木県大田原市本町2-2828-4  
☎0287-22-2826 FAX 0287-23-4961  
事務所ホームページ <http://www.pref.tochigi.lg.jp/g56/index.html>



事務所HP